ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-No.1（STA.No.2+15R）	調査位置				北　緯	36 ° 44 ’ 37.2000 ”
発 注 機 関	栃木県日光土木事務所 道路部　道路保全課			調査期間	2008-06-12 ～ 2008-06-16	東　経	139 ° 30 ’ 58.3000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	1015.33 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 20.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	7.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	1015.03	0.30	0.30		有機質シルト (MO)	黒褐		軟らかい	粘性中位，植物根混入。		
	1014.33	0.70	1.00		表土(砂礫) (SF)	暗灰	緩い		0.30～0.70m間は転石 φ20～40mmの亜円火山礫主体 礫間は粗砂と少量の粘土からなる		
1					火山砂礫 (GS)	暗褐灰	緩い		φ20～40mmの亜円火山礫主体。 φ100～200mm(コア長L=30～70mmの3倍程度として推定)の転石が混じる 礫間は粒径不均一な火山灰質砂と少量の粘土で充填 全体的に緩く，崩壊著しい。		
2											
3	1011.63	2.70	3.70								
4					火山砂礫 (GS)	暗灰	非常に密な		φ20～40mm程度の亜円火山礫が主体。 φ100～300mm(コア長L=30～100mmの3倍程度として推定)の転石が混じる 礫間は粒径不均質な火山砂と粘土からなる。 礫種は安山岩が主体。 孔壁の自立性が高いが，送水による不安定化が著しい 深部ほど密実に堆積している 6.8m付近に玉石点在。		
5											
6											
7	1008.33	3.30	7.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	3	2	7／30	7
1.45					
2.15	2	3	3	8／30	8
2.45					
3.15	3	3	4	10／30	10
3.45					
4.15	7	7	10	24／30	24
4.45					
5.15	24	26／9		50／19	>50
5.34					
6.15	38	12／2		50／12	>50
6.27					
7.00	50／0			50／0	>50
7.00					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
				06/12
				06/16